

大船之	津守之占尔	将告登波	益為尔知而	我二人宿之	万葉集 卷二 109 大津皇子
大船の	津守の占に	告らむとは	まさしに知りて	わが二人宿し	
おほふねの	つもりのうらに	のらむとは	まさしにしりて	わがふたりねし	
大船の	津守の占いに	出てくることを	まさしく知りながら	我ら二人は●●のだ	
(訳の一部を伏字にした)					